

オオムラサキ:国蝶観察会 県内最大級繁殖地、秦野の八国見山で--自然保護グループ ／神奈川

毎日新聞 2014年07月22日 地方版

県内で国蝶（ちょう）オオムラサキの最大級の繁殖地とされる秦野市渋沢の八国見（やくにみ）山（319メートル）で21日、オオムラサキの観察会があった。NPO日本チョウ類保全協会理事の高桑正敏さんの案内で、同市内の自然保護グループ「渋沢丘陵を守る会」のメンバーら30人が参加した。

山頂から東尾根にかけ、オオムラサキが樹液を吸うクヌギやコナラの林を探索。高桑さんは道すがら昆虫の生態や生息環境を説明した。東尾根の開けた場所で小動物の排せつ物を食べる雌のオオムラサキを見つけ、間近で観察しカメラに収めた。また山頂付近を飛ぶ1匹を確認した。

八国見山周辺は良好な自然環境から多くの動植物が生息し、渋沢丘陵を含めた大磯丘陵と丹沢山系を結ぶ貴重な「緑の回廊」となっている。大磯丘陵で虫食いの乱開発が進む中、八国見山周辺が生息地を追われた昆虫類などの「駆け込み寺」になっているとの報告もある。八国見山南面区域では大規模な霊園開発が計画され、同会を含む自然保護グループが反対運動に取り組んでいる。【高橋和夫】



八国見山の東尾根でオオムラサキの姿を追う参加者

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.